

東海道第五十一宿

石部

いしば

石部は京都から江戸へ向かう旅人が
最初に泊まった宿場である。
見どころは天然記念物のウツクシマツ石部
の正倉院 江戸時代の道中薬の和巾散
本鋪二百年前のゾウの化石など、
歴史・文化・自然・地質と幅広い。

さなれた町である切妻屋根
の民家が相違残って旧街道
の面影をそのままとめてる
この辺は近江茶の産地で、古風
なたたずまいの茶の店が多い。



松重画 石部宿

東海を
五宿三
日

石部
目川室

ウツクシマツの群生

水口から石部へ向かう途中でぜひ見ておき
たいのが平松のウツクシマツである。

松は普通一本の太い幹から枝が出るが、ウツク
シマツには主幹というものがなく根元からい
くつにも株分かれしている。このため扇か傘
ホウキのような形をしており、マツには見え
ないこの珍しい樹木は美松山の南東斜面
に二百数十本ほど群生しており天然記
念物地質の影響で、さまざまな変種にまで

石部宿場の里

JR石部駅の南にある雨山文化運動
公園内
江戸時代の旅籠、農家・商家や茶店
をより当時の生活を再現している。
敷地内には東海道歴史民俗資料
館もあり石部宿の模型などが展示さ
れている。

石部の正倉院と暮らした常楽寺、
長寿寺がある。ともに良弁の開基といわ
れ西寺東寺と呼ばれ常楽寺は国室
の本堂、三重塔長寿寺には国室の本堂
があり鎌倉・室町期の古いものである。

